写真で見る昭和の横浜⑥ 一九五一年桜木町事故現場

一九五一（昭和二六）年四月二四日、午後一時四四分頃、京浜東北線の終点桜木町駅に向かっていた五両編成の電車が、駅手前六〇メートル付近で、一両目（モハ六三七五六）のパンタグラフと垂れ下がっていた「トロリー線」とが絡まり、発生した火花により瞬く間に炎上、二両目（サハ七八一四四）も半焼し、一〇〇人以上が犠牲となる大きな事故となった。この日は、統一地方選挙の開票日にあたり、選挙の結果を見るための人出も多かったようで、桜木町駅前には約五千人が押し寄せ、一時、市電の運転が出来なくなったという（神奈川新聞四・二五）。

写真1「第一次事故発生場所」(No.2)

写真2　台紙に貼付された写真
説明を書き込む欄がある専用紙の両面に貼付してある。

この大事故は、一九四八（昭和二三）年、自治体消防として発足した横浜市消防にとっても、発足初期の印象深い事故であった。そのため『炎　横浜消防二十年史』等においても、何人かの方が回想を寄せている。

ここで紹介する資料は、横浜市消防局が、この事故における消防の活動を記した『横浜市桜木町国電火災概況』（市史資料室資料六五〇―一）、並びにこれに付随すると思われる事故後の写真（同六五〇―二）である。『概況』はガリ版刷り五八頁の冊子で消防部隊・救護隊の活動、発生原因、警察や中区役所など他の機関の活動、被害者・目撃者の談を掲載する。なお、消防の活動については、「六三型の悲劇　国電―桜木町駅の惨事」（『横浜消防』第二巻第六号、一九五一年六月）に、一部省略され掲載されている。被害者の談では、全焼した一両目に乗車し辛くも逃れた方の生々しい証言もある。

写真は、事故後に消防が撮影したと思われる全一一枚である。写真2にあるように専用の台紙の両面に貼付され、上段に説明が書かれており、欄外に1～11までの番号がふられている（台紙六枚）。それぞれ、1国電軌道、2第一次事故発生場所（写真1）、3レールにショート（写真2）、4第三碍子の状況、5パンタグラフとトロリー線（写真3）、6電車の状態、7電車の状態（写真5）、8パンタグラフの状態、9焼死体の状況、10死体収容所（写真4）、11死体収容所とあり、パンタグラフや碍子など事故原因や痕跡の写真が主である。

写真3「パンタグラフとトロリー線」(No.5)

写真4「死体収容所」(No.10)
隣接する貨物駅東横浜駅

写真1では、「最前方に見えるのが全焼した電車、左端（手前）に連結されているのが後尾三両、第一次的メッセンヂワイヤーが工夫の過失によってショートした個所は×印の鉄塔である」と書かれており、青インクで中上の矢印の先に×印が書かれている。このショートによって、トロリー線を吊っている線が切れて垂れ下がってしまった。事故発生のそもそもの原因個所を示している。火災はこの個所から一五〇メートル以上、駅寄りで起きている。

この事故の写真は、新聞社を中心に、火災時のものも含めて多く残っており、ここで紹介した写真は珍しいものではないが、地元横浜市で起きた大事故に出動した消防の活動を、改めて認識させてくれる資料といえよう。

（百瀬敏夫）

写真5「電車の状態」(No.7)
焼けて骨組みだけになった車両上部